

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年10月3日(日)第一主日礼拝  
週報「通算第577号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」 p. 402

【交読文】 No.12詩篇第33篇 p. 888

【賛美Ⅱ】 新聖歌172「望みも消え行くまでに」 p. 248

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.9「ひとつの心」

【聖書朗読】 使徒の働き12章12節～17節(新約p. 258下段)

【礼拝説教】 《召使いロデ(ロダ)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ●ポイント1. 「教会が熱心に祈っていた理由」とは？

※使徒の働き5章17節～25節「十二使徒の奇跡的解放」 (新約p.241)

5:17 そこで、大祭司とその仲間たち、すなわちサドカイ派の者たちはみな、ねたみに燃えて立ち上がり、

5:18 使徒たちに手をかけて捕らえ、彼らを公の留置場に入れた。

5:19 ところが、夜、主の使いが牢の戸を開け、彼らを連れ出し、

5:20 「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちの言葉をすべて語りなさい」と言った。

5:21 彼らはこれを聞くと、夜明けごろ宮に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間たちは集まって、最高法院、すなわちイスラエルの子らの全長老会を召集し、使徒たちを引き出して来させるために、人を牢獄

に遣わした。

5:22 ところが、下役たちが行ってみると、牢の中に彼らはいなかった。それで引き返して、こう報告した。

5:23 「牢獄は完全に鍵がかかっている、番人たちが戸口に立っていました。しかし、開けてみると、中にはだれもいませんでした。」

5:24 宮の守衛長や祭司長たちは、この言葉を聞くと、いったいどうなることかと、使徒たちのことで当惑した。

5:25 そこへ、ある人がやって来て、「ご覧下さい。あなたがたが牢に入れた者たちが、宮の中に立って人々を教えています」と告げた。

### ●ポイント2.「召使いロデと、教会に集っていた人々」とは？

■ロデ「ばら」という意味。ヨハネ・マルコの母マリヤの家で働いていた女性で、ペテロが牢獄から御使いによって奇蹟的に救い出され、マリヤの家の門をたたいた時に応対に出た。マリヤの家は初めの頃中心的な役割を果たしており、そこにいたロデも固い信仰を持っていた。

### ※使徒の働2章13節～14節抜粋「初期エルサレム教会」 (新約p.232)

彼らは町に入ると、泊まっている屋上の部屋に上がった。彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちと共に、いつも心を一つにして祈っていた。

### ●ポイント3.「祈りが答えられる条件」とは？

#### ※ヘブル人への手紙11章6節 「信仰がなければ」 (新約p.451)

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いて下さる方であることを、信じなければならぬのです。

#### ※ローマ人への手紙10章11節～12節「信頼する者は」 (新約p.314)

10:11 聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」

10:12 ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。

## ◎先週のメッセージの概要【シモン・ペテロの解放】

《さて、ヤコブの死をユダヤ人たちが喜んだ事を知って、ユダヤの王ヘロデ・アグリッパは、ついに使徒の指導者シモン・ペテロをも捕らえることに成功します。実は、ペテロが牢に入れられるのは、三回目となります。一回目はペテロとヨハネだけでしたが、二回目は使徒全員が捕らえられて牢に入れられます。この時は、御使いによって全員が救い出されます。

王アグリッパは、最高議会から使徒全員が、突然牢獄からいなくなった事、またイエスが葬られた墓において、見張りのローマ兵に起こった出来事を、知っていたと思われれます。それゆえ四人一組の兵士四組を配置して、厳重な監視をつけたのです。しかし、それにも関わらず、御使いによって、ペテロは、牢から脱出します。御使いが離れた時に、彼は夢ではなく現実であったことに気づき、そして、すぐさま教会に向かいます。

そこは、マルコと呼ばれているヨハネの母マリアの家のことで、そこには多くの人々が集まって、祈り続けていたのです。実はこの家こそ、主イエスと共に使徒たちが、「最後の晚餐」を行なった場所でもあり、また主の昇天後に、オリーブ山から、彼らが戻って来た場所なのです。そこには、120名の兄弟たちが集まっていて、日々祈りを捧げていました。主イエスは、エルサレム教会の場所を、十字架にかけられる前から、あらかじめ弟子たちに用意しておられたと言うわけです。教会は「祈りの家」です。

ペテロが奇跡的に牢獄から、御使いによって救出されたことは、真に教会が熱心に祈った結果でもあるのです。使徒パウロは勧めています。「あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。その為に、目を覚ましていて、すべての聖徒の為に、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。」と。神様には神様のご計画と御心があります。しかし、教会や信徒の熱心な祈りによって、神様はそのご計画や御心を変えられる場合があります。それだからこそ、教会は熱心に心を一つにして、祈らなければならないのです。私たちには、祈る特権が与えられています。》

## ◎お知らせ

※10月の第二主日礼拝は、平常通り10月10日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、10月6日(水)各家庭において行ないます。